

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/06/02

膠着状態からの離脱を狙う

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	日銀会合と黒田総裁会見に注意 予想レンジ: 100.000 ~ 104.000 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	下値不安は小さい 予想レンジ: 92.000 ~ 96.500 円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



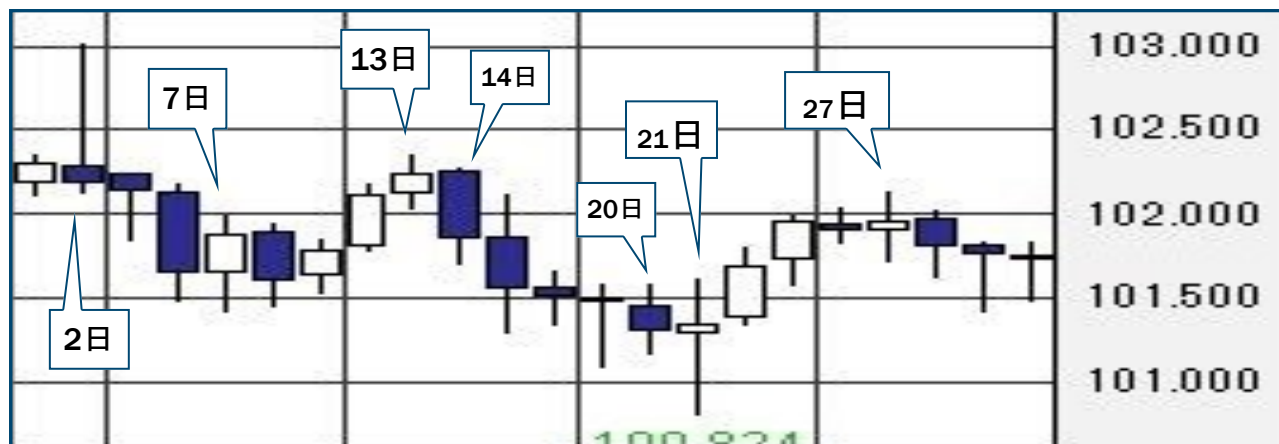
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD / JPY

ドル/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	102.199円	103.016円	100.824円	101.744円



2日	米4月雇用統計は、失業率が6.3%、非農業部門雇用者数が28.8万人増と市場予想(6.6%、21.8万人増)を大きく上回った。これを受けて103.016円の高値を付けたが、労働参加率が62.8%と過去最低水準に並んだことなどから頭を押さえられ、NYダウ平均の下落などを受けて上げ幅を縮小した。
7日	米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長は「高いレベルの緩和は引き続き正当化される」「FRBは景気が回復する限り量的緩和の縮小を行う」「量的緩和の縮小が終了してから金利が正常化するまでかなりの時間が掛かる」「利上げ開始に関する具体的な時期はない」などと発言した。目新しい内容ではないものの、どちらかと言えばハト派寄りの発言と言えるものだったことから、米長期金利が低下。これを受けてドル/円は一旦軟化した。同発言を好感してNYダウ平均が上昇したことから、その後ドル高・円安に転じた。
13日	日経平均株価の堅調さを受けてドル/円はジリジリと上昇。しかし、米4月小売売上高が前月比+0.1%と市場予想(+0.4%)を大幅に下回ったことを受けて102.049円まで一時急落した。
14日	米長期金利が大幅に低下したことや、欧州中銀(ECB)の追加緩和観測等を受けてユーロ/円が下げたことを受けてドル/円は失速。さらに、英中銀の四半期インフレ報告が市場予想よりもハト派的であると受け止められてポンド/円が急落すると、101.720円までつれ安した。
20日	ダドリーNY連銀総裁が「利上げのペースは比較的緩やかになる」などと発言したことなどを受けて米長期金利が低下すると、ドル/円は101.191円まで軟化した。
21日	日銀は市場予想通りの金融政策据え置きを発表。その後の黒田日銀総裁の記者会見が始まると、当面は追加緩和の可能性が低いとの見方が市場に拡がる中で仕掛け的な円買い・ドル売りなどが入り、ドル/円は断続的に急落。100.824円の安値を付けた。ただ、その後は米長期金利が上昇する中でドル/円も反発。米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録で「金融政策正常化の手段について議論した」とあったことを受けて米長期金利が上昇すると、101.615円まで切り返した。
27日	米4月耐久財受注が前月比+0.8%と市場予想(-0.7%)に反して良好な結果だった上、その後発表された米3月S&P/ケース・シラー住宅価格指数が+12.37%(予想:+11.80%)、米3月住宅価格指数が前月比+0.7%(同:+0.5%)、米5月消費者信頼感指数が83.0(市場予想どおり)、米5月リッチモンド連銀製造業指数が7(同:8)と、概ね良好と言える結果が出る中でドル買い優勢で推移すると、102.146円まで上値を伸ばした。

USD / JPY

今月のポイント

5月のドル/円相場は100.824～103.016円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の下落(ドル安・円高)となった。

ドル/円は、月初に発表された米4月雇用統計の結果を受けて103.016円の高値を付けたものの、日米双方の金融当局が金融政策の先行きについて示唆することに対して慎重になる中で思惑的な動きが限定され、方向感に乏しい状態が続いた。下旬に入り、日欧米の株価は堅調だったものの、米長期金利が著しく低下したことから、ドル/円の頭は102円ちょうど前後で猛烈に重い状態となった。

6月のドル/円相場については、引き続き米長期金利の動向および日銀の黒田総裁の姿勢に注目したい。米長期金利の低下については、ロシアや中国が米債を購入している、という説や、米国の利上げ時期や利上げペースについての前のめり的な思惑が剥落したことの反動など諸説ある。前者については長期的にその流れが続くとは考えにくい。また、後者についても、2015年後半の利上げが視野に入っている以上、長期金利が下げ続けるにも無理があると考えられる。つまり、どこかのタイミングで米長期金利が反転する可能性は十分にある。そうなれば、ドル/円相場の頭を押さえる要因が減ることになる。米5月雇用統計や米連邦公開市場委員会(FOMC)声明などがそのタイミングになってくるかもしれない。一方、日銀について、市場では次の追加緩和の時期を「7月」と見る向きが最も多い。しかし、7月に追加緩和を実行するためには、6月の金融政策決定会合時点で日銀が「追加緩和を行わなければならない可能性があることを指摘する」というステップを踏む必要があると考えられる。従って、6月会合の声明と黒田日銀総裁の会見は注目だ。ここで追加緩和の必要性が指摘されれば強い円安圧力になると考えられる一方、5月会合と変わらない内容となれば、失望感からかなり強い円高圧力が掛かる可能性がある(石川)

(予想レンジ: 100.000～104.000円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

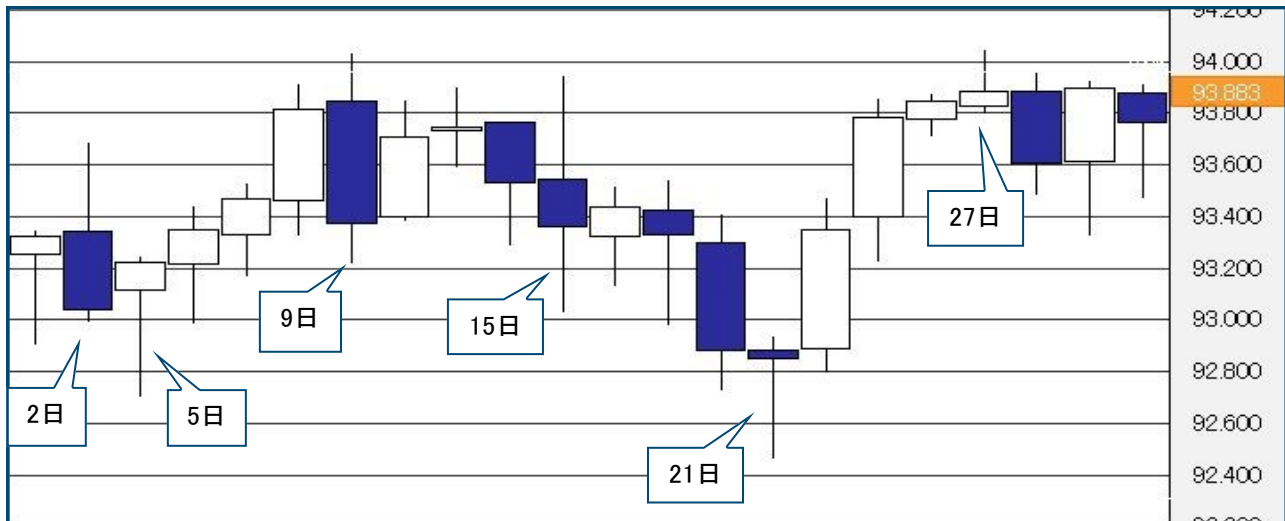
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/2(月)	5月米ISM製造業景況指数	6/17(火)	5月米消費者物価指数
6/4(水)	5月米ADP全国雇用者数		5月米住宅着工件数
	4月米貿易収支	6/18(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (5月20日・21日分)
	5月米ISM非製造業景況指数		5月日本通関ベース貿易収支
6/6(金)	5月米雇用統計		米FOMC政策金利発表
6/9(月)	4月日本経常収支・貿易収支	6/19(木)	6月米フィラデルフィア連銀景況指数
	第1四半期日本GDP・二次速報	6/24(火)	6月米消費者信頼感指数
6/12(木)	4月日本機械受注		6月米リッチモンド連銀製造業指数
	5月米小売売上高		5月米新築住宅販売件数
6/13(金)	日銀金融政策決定会合(12日～発表)	6/25(水)	5月米耐久財受注
	6月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		第1四半期米GDP・確報値
6/16(月)	6月米ニューヨーク連銀製造業景気指数	6/27(金)	5月日本消費者物価指数
	5月米鋳工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

CAD / JPY

カナダ/円 5月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	93.255円	94.047円	92.471円	93.768円



2日	米4月雇用統計の好結果を受けてドル/円が103円前後まで急騰するとカナダ/円も93.60円台までつれ高となった。しかしその後は、ウクライナ情勢への不安(メルケル独首相とオバマ米大統領が会談を行い、ロシアに対する追加制裁措置の用意がある事を表明)が広がり米国株が下落すると93.00円付近まで反落した。
5日	中国4月HSBC製造業PMI・改定値が48.1と速報値(48.4)から下方修正された事などが重石となり、一時92.70円台まで下落した。しかし、米4月ISM非製造業景況指数が55.2と予想(54.0)を上回った事を好感してNYダウ平均が上昇に転じると93円台を回復した。
9日	欧州中銀(ECB)の追加緩和観測からユーロ/カナダが下落(ユーロ安・カナダドル高)したため、カナダ/円も堅調に推移していたが、加4月雇用統計で雇用者ネット変化が2.89万人減と予想(1.20万人増)外に減少するとカナダドル売りが活発化(失業率は予想通りの6.9%)し、93.224円まで下落した。
15日	ドル/円が一時102円台を回復して上昇した動きにつれて一時93.90円台まで値を上げたが、欧米株式市場が軟調に推移したため下落に転じた。その後、NYダウ平均が16500ドルを割り込んで下落する中、一時93.00円台まで弱含んだ。
21日	日銀が金融政策の据え置きと同時に発表した声明から「デフレ」の文字が削除されていた上に、黒田総裁が会見でインフレ目標の達成に自信を示した事から、追加緩和への期待が剥落。全般的に円が買い戻される展開となり、92.471円の安値を付けた。しかし、海外市場に入ると、株価が堅調に推移したほか、原油先物価格が1カ月ぶりに104ドル台へ上昇する中で92円台後半まで値を戻した。
27日	独DAX指数が史上最高値を更新するなど欧州株が上昇する中、一時94.047円の高値を付けた。ただ、その後は、米4月耐久財受注などの米経済指標に良好な結果が目立った事から、ドル高・カナダドル安に振れた影響を受けた他、金や原油などの国際商品価格が下落した事が重石となり伸び悩んだ。

CAD/JPY

今月のポイント

5月のカナダ/円相場は92.471円～94.047円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.6%の小幅な上昇(カナダドル高・円安)となった。ウクライナ情勢や中国景気の減速といった懸念材料がくすぶる中でも、米国株や独株が連日で史上最高値を更新するなど、市場のムードは良好であったが、日銀の追加緩和に対する期待が剥落した事などからやや円高方向に振れたためにカナダ/円も伸び悩んだ。月間の値幅が1.5円程度に留まった点からも、決め手に欠ける相場展開であった様子が窺える。

6月も方向感を持った動きにはなりにくそうではあるが、カナダ/円の下値は限定的だろう。カナダ中銀(BOC)は、4日の理事会で政策金利を据え置くと見られるが、声明からはハト派色が薄れる可能性がある。5月に発表された4月の加消費者物価指数が前年比+2.0%と、BOCが利上げ見通しを撤回した昨年10月時点の+0.7%を大幅に上回るとともに、BOCのインフレ目標(1～3%)の中央値まで上昇したためだ。BOCのハト派姿勢に若干でも変化が見られれば、投機筋のポジションが依然としてショート(売り持ち)に傾いているカナダドルの買戻しを誘発する可能性が高い。もっとも、BOC声明からハト派色が薄れたとしても、すぐに将来的な利上げを示唆するには至らない可能性が高いため、カナダ/円相場上昇の決定打にはなりにくそうだろう。こうした中、最終的なカナダ/円の動向は、主要国の株価や国際商品価格の動きがカギを握る事になると見られるが、5月の流れを鑑みれば、それらに大掛かりな調整が起きる可能性は小さいだろう。また、6月末に発表される公算の本邦成長戦略と公的年金運用改革案が日本株を支え、円売りを誘う可能性もありそうだ。カナダ/円相場は直近4カ月のレンジの上限近くにあるが、どちらかと言えば、レンジ下限に向けた反落リスクよりもレンジ上限を突破する可能性の方が大きいと言えるだろう。(神田)

(予想レンジ: 92.000～96.500円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
6/1(日)	5月中国製造業PMI	6/18(水)	5月通関ベース貿易収支
6/2(月)	5月米ISM製造業景況指数		米FOMC政策金利発表
6/4(水)	加中銀政策金利発表	6/20(金)	4月加小売売上高
6/6(金)	5月加雇用統計		5月加消費者物価指数
	5月米雇用統計	6/23(月)	6月中国HSBC製造業PMI
6/8(日)	5月中国貿易収支	6/27(金)	5月日本消費者物価指数
6/9(月)	4月日本経常収支・貿易収支	6/30(月)	4月加GDP
	第1四半期日本GDP・二次速報		
	5月加住宅着工件数		
6/12(木)	5月米小売売上高		
6/13(金)	日銀金融政策決定会合(12日～発表)		
	5月中国鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。